

2年1組 国語科学習指導案

場 所 2年1組教室
授業者 太田 早恵

1 単元・教材名 音読発表会をしよう 「お手紙」

2 指導の立場

(1) 教材観

本教材は、アーノルド＝ローベル作の「ふたりはなかよし」シリーズの中の一つの話であり、児童にとって身近な生き物であるかえるやかたつむりなどを登場人物にした物語である。ちょっぴりわがままで自分勝手ながまくんと、心優しいかえるくんの二人が、お手紙を通してお互いが相手のことを大切に思っていることを確かめ合うという心温まる話である。友だちに関心をもち始めている2年生の児童にとって、身近で分かりやすく、楽しい物語だと思われる。また、登場人物が少なく、会話文も多いので人物同士の関係が把握しやすい。話の中で、場所が「がまがえるくんの家」「かえるくんの家」「がまがえるくんの家」と移っていることで、場面の変化を把握しやすい。さらに、文章と場面ごとの挿絵を照らし合わせて読み進めることで、登場人物の心情の変化もより分かりやすく読み取ることができる。よって、場面の様子や登場人物の会話や行動を中心に、想像を広げながら読む力を身に付けるために適した教材と考える。

会話が多いこの作品の特徴を生かして、動作化も取り入れながら役割読みをし、登場人物のやり取りを体感させるなど、音読を繰り返すことで、第三次につなげる。

「1年生の友達に『お手紙』の音読発表会をしよう。」という単元を貫く課題を設定し、読み取りへの意欲や音読の工夫の必要感を持って取り組むことができるようにする。

(2) 児童の実態

「スイミー」の学習では、本文の叙述や挿絵からスイミーの様子を想像を広げて読み取り、自分の感想をまとめる活動を経験してきた。場面や、挿し絵から様子を読み取ることができつつあるが、前の場面と比べたり、関連づけて読むこと、言葉に着目して読み深めたりすることにまだ弱さが見られる。

国語の学習においては、学級の半数が「好き」と答えたものの、話し合いや発表が「好き」と答えた児童は3分の1にとどまった。一学期の平均読書冊数は70冊弱で、読書をすることが習慣づいている児童は多い。また、大半の児童は、毎日、楽しみながら暗唱と音読マラソンに取り組んでいることもあり、人前で話すことについて少しずつではあるが、抵抗感が薄くなってきているように感じる。よって、第三次に「音読発表会」をすることは、意欲的に行うことができると考える。

(3) 指導観

【研究内容1】に関わって

第三次の言語活動として「『お手紙』音読発表会」をすることを位置付け、言語意識を次のように設定する。

相手意識・・・・・・・・1年生の友達に

目的意識・・・・・・・・「お手紙」を知ってもらうために

場面・状況意識・・・・朝読書の時間に 1年生教室で

方法意識・・・・・・・・音読発表会をする

評価意識・・・・・・・・「音読発表会」を聞いて、様子がわかったか感想を話してもらう

第二次では、毎単位時間の終末には読み取ったことを音読に生かす活動を取り入れる。そこで一時間の流れを、「様子・心情の読み取り 音読表現の工夫を考える 音読練習」とし、児童が見通しを持って学習に取り組むことができるようにする。叙述をもとに考えることを大切にするために、自分

の考えの根拠となるところに線を引き、なぜそのような工夫を考えたのか、根拠を明らかにして読み取ったり、話したりするよう指導する。

第三次では、音読発表会を位置付け、目的意識をもって意欲的に音読に取り組むことができるようにする。本単元を通して、人物の行動と会話から場面の様子や気持ちを想像しながら、音読することの楽しさを見出していきたい。

【研究内容2】に関わって

まず、一人読みに入る前に、誰が（主語）話したこと（「会話」）なのか、したこと（「行動」）なのかを正しく理解するために、がまくんはオレンジ、かえるくんは緑のシールをワークシートの本文に貼るようにする。黒板の本文についても、全体交流の中で児童と確認しながらシールを貼ることで、可視化する。

次に、一人読みの段階において、ワークシート上段には本文、下段にはがまくんやかえるくんの様子を書き込むことができるよう、方眼マスを用意し、書き込めるようにする。

シールには(^_^)マーク（幸せ）、(x_x)マーク（不幸せ）を記入して、登場人物の様子の変化を視覚的にわかりやすくする。

一人読みを自分で進めることができない児童については、教師対児童で役割音読をして、なぜ、そのような音読の仕方をしたのか、なぜ、そのような表情で読んだのか、などを問いながら取り組むことができるようにする。

【研究内容3】に関わって

交流前段において、ネームプレートを活用し、どの児童の考えも板書に位置づける。また、発言の際には、「　　さんに付け足して（似ていて、違って）……。」というように、友達の名前を入れながら話すことで、友達の意見と関わらせながら意見交流をすることを大切にする。

また、北小の目指す「聴くこと・話すこと」にある話し方を使って、友達の考えとつなげて話したり、反応についても、仲間の意見に対して自分がどのように感じたかを、立場をはっきりさせて自分の言葉で反応したりすることに取り組んでいるところである。

交流後段において、深めの発問「がまくんの「ああ。」は、一場面の「ああ。」と同じなのだろうか。」を投げかける際、役割演技をした時の児童の様子を見届け、なぜそのように音読したのか、動いたのかを児童に問いながら、さらに読みを深めていく。また、挿し絵のがまくんの表情からも、様子が異なっていることが現れているので、叙述からの読み取りだけでなく、効果的に挿し絵も活用したい。

そして、既習の掲示物を活用して説明することを継続して指導することで、一場面の不機嫌な様子の返事とは異なり、がまくんが予想外の驚きから感動する様子が表れていることを、どの児童にも感じ取らせたい。

交流する中で、児童の意見を集約する際、「今の　　さんの・・・という考えについてどう思う？」と切り返すことで、全体で考える時間を確保し、思考のずれを自覚させたり、考えを広げたり、深めたりする。

3 単元の目標

人物の様子や気持ちを想像し、登場人物の様子や気持ちが伝わるように工夫して音読することができる。 【読(1)ア】

登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像し、会話文や挿絵などに着目して読み取ることができる。 【読(1)ウ】

5 本時のねらい

会話文や挿絵に着目して、お手紙をもらえたことやかえるくんが「親友」と言ってくれて喜んでいるがまくんの様子に気付き、がまくんの幸せな様子を読み取って音読に生かすことができる。

6 本時の展開(6/12)

* 人権教育の観点

	学 習 活 動	指導・支援 見届けの視点
導入	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙がくることを諦めているがまくん。 ・何度も窓の外を見て、かたるむりくんが来るのを待つかえるくん。 ・がまくんのことを元気づけているかえるくん。 <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>掲示やワークシートをもとに、前時までの学習を振り返るよう助言する。</p> <p>だれが話したこと(会話)なのか、したこと(行動)なのかを全体で確認する。</p>
個人追究 / 交流前段	<p>お手紙の話を聞いたがまくんの様子を読み取り、音読しよう。</p> <p>3 一人読みをして、全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんの様子が分かる所に線を引き、自分の考えを書く。 ・「きみが。」...かえるくんが書いてくれたの? (驚いた感じで音読したい。) 欲しかった手紙がもらえると聞いてわくわくする。(はずむような声で音読したい。) ・「ああ。」...ぼくのために手紙を書いてくれたんだ。 (嬉しい気持ちで音読したい。) ・「とてもいいお手紙だ。」 ...ぼくのことを親友とってくれているんだな (感動のあまり、大きな声で音読したい。) <p>4 深めの発問をし、がまくんの様子について読みを深める。</p>	<p>どの言葉から考えたのか、根拠を明確にして話すよう声をかける。</p> <p>挿し絵を活用しながら役割音読することで、がまくんの気持ちを想像する。</p> <p>手紙の内容から「とてもいいお手紙」の「とてもいい」と結びつけて読み取っている児童を価値付ける。</p> <p>2つの「ああ。」を声に出すことで、違いを実感できるようにする。</p>
交流後段	<p>【一場面の「ああ。」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度も手紙をもらったことがなくて悲しくてたまらない。 (暗く、元気のない、小さな声で音読した。) <p>【三場面の「ああ。」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんがこんなに素敵な手紙を書いてくれるなんてとても嬉しい。 (明るく、満足そうな声で音読したい。) ・今までは友達なんかいないと思っていたけれど、ぼくにはかえるくんのような親友がいてくれて幸せだな。 (ほっ、と安心したような感じで、ゆっくり音読したい。) 	<p>* 言葉を手がかりにがまくんの気持ちを豊かに想像する力を育てる。(自己啓発力)</p> <p>定着状況の見届け 一場面の落胆の様子とは違う感動の「ああ。」であることを理解し、音読しているか。 できていなければ、ペアで音読を聞き合う中で、アドバイスし合って修正したり、モデルとなるペアの音読を聞いて理解したりする。</p>
まとめる	<p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <p>わたしは、「ああ。」のところは、欲しかった手紙がもらえたことと、かえるくんが親友と言ってもらえてうれしくてたまらないと思うので、明るく大きな声で、感動したように読みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことを生かして、登場人物の様子や気持ちが表れるように音読する。 ・ペアでどのように音読するのか、考えを交流し、お互いの音読を聞き合う。 ・モデルの音読について、感想を交流する。 ・交流したことをもとに、もう一度工夫して音読する。 	<p>【評価規準】 会話や挿し絵に着目して、役割音読や動作化することを通して、お手紙をもらえたことやかえるくんが「親友」と言ってくれて喜んでいるがまくんの様子に気付き、がまくんの幸せな様子を読み取って音読に生かしている。</p>

4 単元指導計画（全12時間計画）

過程	時	主な学習活動（課題・着目する語句・深めの発問）	単元を貫く 課題/言語活動	評価規準【観点】
一 次	1	「お手紙」を読んで、はじめの感想を書こう。 ・感想を持つ視点を確認し、感想を書く。	だ れ が 何 を す る の か ど ん な こ と を 言 っ た の か を 読 み と り 音 読 表 会 を し よ う。	物語に興味をもち、好きなところを見つけて感想を書いている。 【関・意・態】
	2	感想を交流し、「お手紙」の学習課題を考えよう。 ・感想を交流しながら、場面分けをする。 ・時や場所、登場人物を、挿し絵をもとに確認する。 ・感想をもった場面について、本文の言葉や表現、挿し絵をもとにして発表する。 ・感想をもとにして、学習課題を考える。		場面ごとに、物語の大体をつかみ、初発の感想から学習課題を考えている。 【関・意・態】
二 次	3	「お手紙」をもらえないがまくんと、それを知ったかえるくんの様子を読み取り、音読しよう。 ・がまくんの悲しみを受け止めるかえるくんの様子を読み取る。 ・2枚の挿し絵を見比べる。 ・2人で腰を下ろす様子を動作化する。 ・読み取ったことを生かして音読する。 着目：ふたりとも、かなしい気分で 深め：なぜ「ふたりとも、かなしい気分」なのだろう。		会話文や挿絵に着目し、がまくんの悲しい気持ちを話し合うことを通して、がまくんのことを心配するかえるくんの優しさに気付き、がまくんの悲しみを受け止めるかえるくんの様子を読み取って音読に生かしている。 【読(1)アウ】
	4	がまくんに「お手紙」を書くかえるくんの様子を読み取り、音読しよう。 ・がまくんを喜ばせたいというかえるくんの様子を読み取る。 ・読み取ったことを生かして音読する。 着目：大いそぎで、とび出しました。 深め：なぜ、かえるくんは、かたつむりくんに「お手紙」を渡したのだろう。		本文の叙述と挿絵に着目し、がまくんに手紙を出そうとするかえるくんの様子を話し合うことを通して、かえるくんの優しさに気付き、がまくんを喜ばせたいというかえるくんの様子を読み取って音読に生かしている。 【読(1)アウ】
	5	がまくんをはげますかえるくんの様子を読み取り、音読しよう。 ・懸命にがまくんを励まし続けるかえるくんの様子を読み取る。 ・三回窓からのぞくかえるくんの様子を動作化する。 ・読み取ったことを生かして音読する。 着目：がまくん でもね、がまくん 深め：なぜ、三回も同じ言葉を繰り返したのだろう。		繰り返しの言葉や挿絵に着目し、手紙を待ちわびるかえるくんの気持ちを話し合うことを通して、手紙をあきらめ、投げやりになるがまくんに気付き、早く手紙が来ないかと待ちながら懸命にがまくんを励まし続けるかえるくんの様子を読み取って音読に生かしている。 【読(1)アウ】
	6 (本時)	お手紙の話聞いたがまくんの様子を読み取り、音読しよう。 ・がまくんの幸せな様子を読み取る。 ・がまくんにインタビューして、様子を読み取る。 ・読み取ったことを生かして音読する。 着目：きみが ああ。 とてもいいお手紙だ。 深め：「ああ。」は、一場面の「ああ。」と同じだろうか。		会話文や挿絵に着目し、お手紙をもらえたことやかえるくんが「親友」と言ってくれて喜んでいるがまくんの様子を話し合うことを通して、かえるくんの優しさや友情に気付き、がまくんの幸せな様子を読み取って音読に生かしている。 【読(1)ウ】
	7	お手紙が来るのを待っている二人の様子を読み取り、音読しよう。 ・手紙が届いた時の二人の幸せな様子を読み取る。 ・読み取ったことを生かして音読する。 着目：ふたりとも、とてもしあわせな気もちで 深め：四日間、二人は何を考えていたのだろう。		叙述と挿絵に着目し、手紙を四日間待っていた二人の気持ちを考えることを通して、お手紙を待つ喜びやかえるくんの友情の深さに気付き、手紙が届いた時の二人の幸せな様子を読み取って音読に生かしている。 【読(1)アウ】
三 次	8	役割を決めて、音読劇の台本を作ろう。 ・グループに分かれて、音読劇発表会に向けての話し合いをし、自分の担当する場面の台本を作る。		読み取ったことをもとに台本を作り、音読劇の練習をしている。 【読(1)ア】
	9 10	音読劇の練習をしよう。 ・登場人物の様子や気持ちが表れるように、声の大小、速さ、間の取り方、表情や身振り、目線や視線などに気を付けて動作化し、音読劇をする。 ・自分の音読と友達の音読を聞き比べて、よりよい音読の工夫をする。		自分の音読と友達の音読を聞き比べて、よりよい音読の工夫をしている。 【読(1)ア】
	11 12	1年生に音読発表会をしよう。 ・1年生に音読を発表する。		進んで音読発表会の練習に取り組み、友達の音読の良いところを探しながら発表を聞いている。 【関・意・態】